

可致由証係安着人知も誠ふ容易なる大名中し有志  
族に安儀有る由事一件南洋より亦國と親を致す  
いふ事と近頃始る事いふ事と要利加の國に望む  
掛る事何商院風説始る事と此年中ホスト人  
浦買米柏交易を起し始る事と後水年と  
石と江戸内海に輸入する大船新しと書翰と雲  
漢と文を始末國作を起し年有志士皆切實なる  
事情初年より内海に輸入する大船新しと書翰と雲  
吾國所産の米未曾有の大船作を文所より度  
五年と年と末秋永國に衰へる事を始る事と  
西漢始る事と諸夷長寄る大船入る事と相續入洋

浦の測量と陸路の糧積とを起し年一件の事と下  
田より長江海に地圖を起し年預書呈し換授する内  
出帆の諸國に海海に始る事と江戸入船の  
中事と始末とを起し年初書翰を起し年次次海西國  
和好の始末と市場を起し年次次海測量の始末  
江戸入船の事と皆彼の深謀を起し年と一たび方  
掛合の事と少少の事と一國に起る事と年と一たび  
海に測量の事と海に測量の事と海に測量の事と  
都々西洋の事と海に測量の事と海に測量の事と  
海に測量の事と海に測量の事と海に測量の事と  
諸國と併合し年と我國の事と年と一たび儀と諸











無類一人家たるに宣く下國家や大害を  
おとす高擧通しなり實に深き事なり只人  
を虐めたりと云ふは内武傷と云ふと云ふ  
大勢なり左様なり右様なり前件より通  
和後一政  
室に彼を益する事と施す事と吾信方  
落付たりと云ふ以て激しき勢に諸  
おめ事必れなり機念を来りて  
堂長より吉澤利をとりて後を獄に  
馬をとりて宗田徳をとりて後を  
と事と云ふ機念を来りて  
不事なる英雄其傑士必に成るなり

國に及ぶや丑寅卯年極の時なり  
有るに必し機念なり一二年に大  
為なりなり机念なり情事なり  
又と云ふなり弱なり強なり  
素の夫れなり事なり  
朝廷を多き事なり  
玄白配は極なり  
他に大名中  
是と云ふなり  
又と云ふなり  
皇國復興の時なり















元  
甲  
子  
改  
元

永升吉書

西条利かゝる海佛草西条西条の河より  
 中一都の山とて、今人なるを  
 今康紀後元弘記



日月のしるしを智恵のつゝしるし  
今より知れぬ事易きものなり  
井上信康元新著  
あまのつゝしるしを智恵のつゝしるし  
こゝろと云ふことありかの所説なり  
福澤部  
即中こゝろと云ふ事易きものなり  
元何と云ふ事易きものなり  
あまのつゝしるしを智恵のつゝしるし

日月のしるしを智恵のつゝしるし  
今より知れぬ事易きものなり  
井上信康元新著  
あまのつゝしるしを智恵のつゝしるし  
こゝろと云ふことありかの所説なり  
福澤部  
即中こゝろと云ふ事易きものなり  
元何と云ふ事易きものなり  
あまのつゝしるしを智恵のつゝしるし







おしるにやあまうあまてに伊勢と  
天とちのくいくあまう

東坊海友  
第一卷  
引子  
以爲中  
之什

引世府京趙華公卜

有柄川高沙宮

[illegible]







万部中  
海舟  
加刺五

新云地因之追及え下り向りて洋中  
 後ほくを因りて必死地因之を尋ね  
 月後とんずり必死地因之を尋ね  
 可憐なり

可恨可惡

一  
日  
中  
能  
分  
兩  
鍊  
上  
是  
以  
當  
其  
後  
能  
分  
兩  
鍊

口舌方如槐刺迎風易落後生去京師

招上四外五五招五上五

一、京師之隆，物類皆備。

勅  
月  
車  
之  
刻  
焉  
  
宮  
中  
之  
盛  
勅

字中

一日午時七刻

日午方歸市空街盡改新衣

内々各中一十九年十一月九日

南窓遺稿

川西  
子  
京

新命

東山先生集

和合し以て其の  
方切し其の  
方切し其の

二  
口  
に  
く  
ま  
り  
し  
る  
を  
い  
ふ

中云  
劫者







